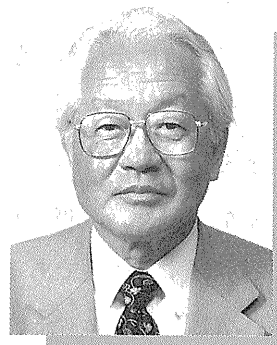


巻頭言

IT 革命に思う

瀬 口 龍 一



IT 革命という言葉が大流行している。

今や現政府の目玉政策といっても過言ではない。建設業界においても、建設 CALS や電子入札といった言葉が飛び交うこの頃である。私の会社でも IT 無しには日も暮れないようになってきた。

しかし、最近では、あまり流行りすぎて、手段としての IT が何時の間にか目的化してしまい、何のために、という肝心なことが置き忘れ去られているようなケースがやや目立つような気がする。

やはり、構造改革や業務改革、プロセス改革といった事が基本で、仕事のやり方そのものが変わらなくては意味がない。遠距離の旅がしてみたいという願望があってはじめて、新幹線もジェット機も生きてくる。IT 革命は産業革命と並んで道具の革命である。

勿論、目的ではなく手段にすぎないといっても、ジェット機など交通手段の発達によって、海外旅行が日常茶飯になってきたのと同じで、昔から考えても出来なかった事がこれによって出来るようになるという意味で、その効果は計り知れないという事も紛れのない事実である。

私は、IT の効果は、当たり前的事だが、ネットワークによる情報の公開と共有化に尽きると考えている。そこから派生的に様々なメリットが生まれてくる。

最近、B to C とか B to B とか言われているが、私はこの「to」を勝手に「直結」という言葉に置き換えている。中抜きという言葉も流行っているが、縦横の隙間を埋め

て、直接繋がるという事がその端的な効果である。スピード、正確性、親密度、効率性が飛躍的に向上する。

二番目に全体が鳥瞰的に見えるという事がある。

世の中には木を見て森を見ず、とか群盲象を撫でるとか、合成の誤謬とか言われるように、個において真なることが、必ずしも、全体において真でない、と言う事があるが、ITは、全体を見ることによって、部分最適から脱して、全体最適化を図る事を可能にする道具であるともいえる。

次は、シミュレーションなどに代表されるように、論理的に推定される未来が見えると言うのも大きな利点である。バーチャルな世界で、模擬テストをしたり、模擬作業をしたり、ハードについても、ソフトについても事前検証をする事が出来る。結果として、手戻りや遣り直しなどの無駄を排除できるし、コンカレントエンジニアリングを可能にし、設計に生産性や、サービス性などの要素をあらかじめ織り込む事も容易に出来るようになる。

最後に強調しておかなければならないのは、ネットワークを社内のみならず、社外についても広げる事が出来るという点である。CALSとか、サプライチェーンマネジメントとか、e-ビジネスといったものがその典型だろう。

これ以外にも、ITの様々な使い方や効果があろうかと思うが、いずれにしても、実務家の一人として、IT革命が単なるお祭り騒ぎに終わらず、地道に、堅実に遂行され、実質的な効果と変化を、官民共に齎すようなものになるよう祈って止まない。